

取り組み紹介書

| | |
|--------------------|--|
| 施設 聖隷カーネーションホーム | 職場 <u>聖隷在宅介護支援センター淡路</u> 氏名 <u>新箭 幸平</u> (団体の場合は団体名 _____) |
|--------------------|--|

| |
|---|
| <p>【タイトル】 コロナ禍での認知症サポーター養成講座の普及啓発</p> |
| <p>【課題】</p> <p>① 地域での高齢化率、認知症高齢者が年々増加する中、淡路市でも独居、高齢世帯の認知症問題、認知症予備軍の増加が地域課題となっている現状がある。</p> <p>② 認知症サポーター養成講座の受講はしたものの、実際に活躍する場所、機会がないのも現状である。今後、コロナ禍で活動機会が減少する可能性がある。</p> |
| <p>【目的】</p> <p>① 認知症高齢者の方やその家族が、住み慣れた地域で安心して暮らし続けるために、地域住民として淡路市の高齢者の現状を把握し、認知症への理解、関わり方を実践する。</p> <p>② サポーターへの活躍の場の提供とステップアップ講座の開催、企画する。</p> |
| <p>【方法】</p> <p>① 淡路市地域包括支援センター職員、他事業所キャラバンメイトと協力しながら、定期的に民生委員、町内会、小中高校、企業へ養成講座の案内、養成講座を実施する。</p> <p>② コロナ禍の為、開催場所や人数、感染予防策に考慮しながら開催検討。</p> <p>③ おれんじだより（認知症サポーター広報誌）を年2回作成、サポーターの活躍や認知症カフェの紹介を行う。</p> <p>④ 地域での認知症カフェへの参加や認知症家族会への参加の支援を実施する。</p> |
| <p>【結果・効果】</p> <p>① 新型コロナウイルス感染拡大に伴い開催を中止方向だったが、各種関係機関と感染対策に留意しながら、コロナ禍で今年度の養成講座開催は、2ヶ所 約40名が参加。小学校福祉教育、高校福祉コースが年々定着し、授業の一環となっている。</p> <p>② 現役の介護者、介護を終えたご家族が集まる家族会からの依頼もあり、もう少し認知症の事を知りたいと積極的に認知症への理解を示される方も多い。</p> <p>③ 認知症カフェの支援や認知症広報作成など啓発活動に率先して参加されているサポーターもあり、地域での認知症への理解が深まっている。</p> <p>④ 養成講座を受け、SOS見守り訓練を実施する町内会もあり、講座を通じて住民同士のつながりや支えあいの意識も深まっている。</p> |
| <p>【事業団内外の表彰実績（表彰されている場合）】</p> <p>.</p> |

※人命救助などの場合は添付の必要はありません。